

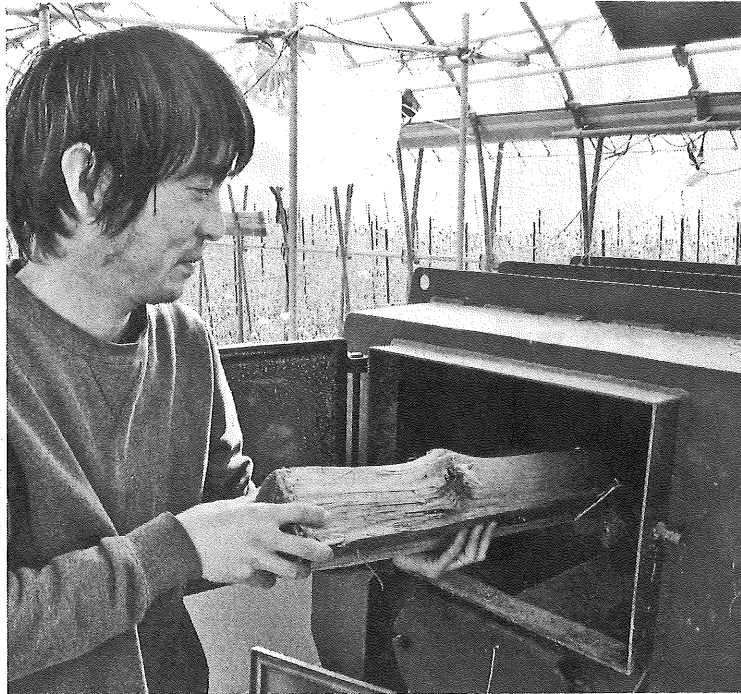
木質バイオマス暖房機

千葉県南房総市

花き中心に 導入広がる

全国有数の花き産地、千葉県南房総市で丸太やまきを燃料にする、木質バイオマス(生物由来資源)暖房機が増えている。3年前に導入が始まり、市の支援もあって、これまでに花き農家を中心に10台が入った。暖房効果が重油暖房機と比べて遜色なく、高騰する暖房費の低減につながっている。まきを乾燥させる一時集積場が整備されるなど農家を後押しする環境も整い、市は今年度、10台程度の導入を見込んでいる。

同市宮下でカーネーション 600平方メートルのハウスにヨンを栽培する稲葉修司 設置し、12月中旬から3さん(30)は今冬、石村 月まで重油暖房機と併用工業(岩手県釜石市)がした。夕方5時ごろにま製造する木質バイオマス きに火を付ければ翌朝ま暖房機「スーパードロン で稼働し、重油暖房機は太を試験導入した。約 気温10度以下で稼働する



バイオマス暖房機を活用する稲葉さん

市が設置経費助成／森林組合も後押し

よう設定した。稲葉さんは「暖房効果には満足している。コストは例年に比べ、3割ほど少なく済んだ」と効果を実感する。木質バイオマス暖房機の価格は、設置コストも含めて1台40万円程度。市が農家に設置経費の半額助成を始めたことで、2013年度には一気に5台導入され、利用農家は計7戸になった。東日本大震災被災地のメーカ1との連携は、復興支援にもつながる。

燃料のまきを供給する県森林組合も昨年、一時集積場4000平方メートルを設置した。十分に乾燥させてから農家に供給する。湿ったまきを使った時にタールが発生する問題を解決するためだ。

まきの価格は1立方メートル当たり5470円。1立方メートルは2、3日分の使用量になる。市の担当者は「値段が付かなかった森林整備の間伐材が、有効活用できて一石二鳥」と話す。

市内では年間3000立方メートルの間伐材が発生するが、ほとんど利用されていないという。バイオマス暖房機は1台で年間30立方メートル利用する。暖房機10台で、間伐材の1割に当たる需要が創出された。市は「さらに普及するには県や国全体の理解醸成が必要だ」と、導入農家への支援の重要性を指摘する。